



▲北関東自動車道笠間西IC～桜川筑西ICの開通式典が盛大に挙行されました。これで、県内区間は全て供用されました。これまで、多大なご尽力を頂いた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。この地域発展の大きな起爆剤となることを願っています。21年度には東北道まで接続し、23年度には群馬県高崎市までの全線開通が予定されています。常井議員は、1日も早い150km全線開通を引き続き求めていきます。(20年4月12日)

## 県財政再建下でも、地元県立2病院の充実に予算化

常井洋治議員の10年に及ぶ主張を受けて、県では、20年度予算で、県立中央病院、友部病院の充実・強化へ踏み出しました。県財政が厳しい中にも拘わらず、総事業費で100億円を超える投資です。皆様のご支援のお蔭です。常井議員は、これからも一層頑張ります。

### ◎県立中央病院がん診療施設等整備事業(病院会計)に .....26億3,700万円

- 20年度は放射線治療センター、化学療法センター、人工透析センター新設の実施設計、建設を実施—21年度オープン予定
- ・ 総事業費：約44億円 (H19～24年度) —CTリニアック、人工透析装置等の設備を含む。

### ◎県立友部病院全面改築事業(病院会計)に .....1億6,200万円

- 20年度は友部病院本体全面改築の実施設計を実施
  - ・ 整備内容：現在地建て替え、病床数270床(6病棟)、延べ床面積15,000㎡
  - ・ 総事業費：約60億円
  - ・ 開院時期：平成23年度予定
- 医療観察法に基づく新設病棟(1病棟15床、総事業費8.4億円)の整備も実施
  - ※ 常井議員の提案を受けて、「筑波海軍航空隊の跡地としての歴史に配慮すること」などが、基本計画に盛り込まれた。



「安心できる食の確保や提供等に関する調査特別委員会」で活躍  
(常井議員は、同委員会の委員に選任されました。)

# 一緒に創ろう!

## 平成20年第1回定例県議会を終えて

# ふるさとへの輝く新時代

平成20年第1回定例県議会は、2月27日から3月21日までの24日間開かれました。20年度予算、19年度補正予算及び条例など86議案を議決しました。予算の概要をお知らせします。

### 20年度一般会計予算を議決

# 1兆568億4,600万円

(19年度当初予算比0.3%の減)

### 予算のポイント

#### <交付税減で県財政窮乏>

- 15年を基準にして、16年度から20年度までの5年間で、県税収入は2,344億円増加したが、地方交付税（臨時財政対策債を含む）は3,936億円減額されたため、差し引きで県の裁量で自由に使える一般財源は1,592億円も減っている。税が増収しても、財源が足りない状態。橋本知事は、その背景にある国の三位一体改革は失敗だったと糾弾している。

#### <550億円の財源不足一綱渡り続く>

- 公債費（借金返済）や医療・福祉関係経費の増加などにより、これまでの歳出を維持すれば財源不足額が550億円と見込まれた。人件費などの歳出削減、森林湖沼環境税の新規導入など自主財源の確保、一般財源基金の取り崩し（59億円）などで350億円を確保した。残る200億円は、緊急避難的措置として県債管理基金から借り入れて、やっとなじつまを合わせた。「禁断の手法」と言われるこのやり方を、4年連続使うことになった。

県の試算では、21、22年度とも、各々約400億円の巨額の財源不足が見込まれている。

#### <本当に自由に使えるのは、わずか451億円>

- 20年度予算のうち一般財源は、7,129億円。職員給与と費（2,836億円）や公債費（1,386億円＝借金返済）などの義務的な経費を除いた一般行政費は、1,607億円。ここから、次に掲げる大幅に削減しにくい固定的経費を差し引くと、1兆円を超える予算規模がありながら、実質的に県の裁量で自由に使える金額は、451億円となる。

介護給付費負担金（192億円）、後期高齢者医療給付費負担金等（208億円）、国民健康保険都道府県調整交付金（124億円）、私立高校等経常費補助（115億円）、マル福関連経費（62億円）、児童手当負担金（58億円）、病院事業負担金（41億円）、県住宅供給公社支援補助金（46億円）、県土地開発公社支援補助金（10億円）など。（一般財源ベース）

#### <全職員が給与カットを継続—議員・知事も>

- 一般職員、教職員、警察職員（警視正以上の国家公務員を除く）全てを対象に、3.5～5.0%の給与カットを継続し、人件費を約105億円を削減する。県議会議員は、10%、知事は20%を継続してカットする。

#### <県税収入伸び悩み、交付税も減額計上>

- 県税は、4,206億円を計上。対前年度比1.1%、46億円の増。法人2税（法人事業税・法人県民税）は、企業収益の伸

び悩みを反映して、同比1.5%、22億円の減で1,454億円。個人県民税は、税源移譲の平年度化、森林湖沼環境税の導入により、同比7.0%、70億円の増加で、1,069億円を計上した。

- 地方交付税は、同比4.5%、70億円減の1,500億円を計上。実質的な交付税である臨時財政対策債との合計額では、1,827億円（同比0.7%、12億円の減）となる。
- 県税、地方譲与税、地方特例交付金、地方交付税、臨時財政対策債を合わせた一般財源総額は、6,232億円（同比0.3%、17億円増）となる。

#### <公共投資に充てた県債発行額は縮減>

- 県債は、1,093億円（同比1.2%、13億円の増）を計上。このうち、公共投資に充てた県債は、686億円で、同比8.1%の減となっている。一般財源に充てた臨時財政対策債は、大幅に増加した。

#### <公債費（借金返済）、県債残高（借金残高）は、過去最高。一般財源基金残高（貯金）は、過去最低。>

- 公債費は、同比1.0%増の1,388億円を計上。20年度をピークに減少に転じる見通し。
- 県債残高は、20年度末で過去最高額の1兆7,180億円と見込まれる。しかし、公共投資に充てた県債残高は、18年度をピークに減少に転じている。
- 一般財源基金は、前記の取り崩しにより、20年度末で枯渇寸前の74億円と見込んでいる。（ピークの平成3年度には、1,763億円の残高があった。）

#### <公共事業費は、ピーク時の半分に>

- 国庫補助公共事業費は、1,137億円と同比7.2%の減。ピーク時（平成8年度）2,086億円の45.5%減。県単独公共事業費は、250億円と前年度比5.5%の減。ピーク時（平成9年度）625億円の60.0%減。国補、県単の合計では、ピーク時（平成8年度）2,711億円の48.8%減となった。

### 県財政再建等調査特別委員会の検討結果を反映

同委員会で検討した中から、20年度に実現できるものを取り入れた。主なものは、次のとおり。

#### 1. 審議会・懇談会等の見直しにより、年間約7,300万円の歳出削減

- 審議会80、懇談会等123、計203の設置数→151へ
- 委員の数3,306人→2,399人へ

#### 2. 県組織改正、市町村への権限移譲により、年間約5,200万円の歳出削減

- 地方総合事務所などの20年度組織見直しによる削減効果—▲4,000万円
- 「まちづくり特例市」になった笠間市などへの権限移譲による削減効果—▲1,200万円

### ガソリン税などの暫定税率失効の影響は深刻

- 20年度県予算には、道路関係予算として590億円を計上済みのため、暫定税率が復活しない場合は、県では、

361億円の歳入減になると試算しており、財政再建中の県にとっては、死活問題になる。

- ・ 県では、軽油引取税や自動車取得税の暫定税率により年間約200億円の歳入があり、その廃止によって財源に大きな穴が空いてしまうことになる。1カ月の空白でも、約15億円の歳入不足が見込まれると試算している。
- ・ 今後、暫定税率の復活がない場合は、道路事業の執行凍結や見直しが必要になり、市町村も含め、道路の維持や建設に大きな影響が予想される。20年度予算の事業全体の見直しも必至となる。国へも財政対策を強く求める。

## 注目の新規・拡充事業

### 【少子化対策】

- ①**いばらき3人っこ家庭応援事業（新）** 31百万円
  - ・ 一定の要件を満たした第3子以降の3歳未満児の公立・私立認可保育所の保育料を、5,000円/月限度に助成する。（同時入所3人目以降については、国の措置と合わせて無料化も）
  - ・ 実施主体：市町村（県補助1/2）
- ②**子育て応援企業普及事業（新）** 1百万円
  - ・ 「子育て応援宣言企業登録制度」を創設して、宣言企業に金融機関の低利融資制度の活用等により支援する。
- ③**小児医療環境づくり支援事業（拡）** 28百万円
  - ・ 「茨城子ども救急電話相談」の時間を拡大（毎日18：00～24：00）
  - ・ 全国共通短縮ダイヤル「#8000」一固定・携帯とも利用可能



◀少子化対策には県予算でも積極的に取り組んでいる。市内の卒園式にて。(20年3月)

### 【次代を担う人づくり】

- ①**学力向上推進プロジェクト事業（新）** 6百万円
  - ・ 算数・数学担当指導主事によるプロジェクトチームで、小中学校を訪問指導。優秀教員による模範授業や授業研究会を実施。
- ②**スクールソーシャルワーカー活用事業（新）** 55百万円
  - ・ 児童生徒の問題行動に対応するため、ワーカーの活用方法の研究をモデル的に5市町村に委託する。
- ③**学校支援地域本部事業（新）** 122百万円
  - ・ 中学校単位に同本部を設置して、地域ぐるみで学校運営を支援する。44市町村に委託する。
  - ・ 学校と地域をつなぐ地域コーディネーターを配置して、地域住民をボランティアとして、学習支援、部活動指導、環境整備、安全確保等の学校支援活動に活用する。
- ④**第23回国民文化祭茨城大会（「こくぶん祭」）開催事業（新）** 940百万円
  - ・ 20年11月1日（土）～9日（日）の9日間
  - ・ 出演者数約4万人（県内3万人、県外1万人）、観客数約100万人を予定
  - ・ 笠間市での交流事業：ストーン文化フェスティバル、笠間・炎の祭典



〈ハッスル黄門〉

### 【産業大県づくり】

- ①**中小企業融資資金貸付金（新規融資枠）（拡）** 109,900百万円
  - ・ 融資枠の拡大 経営合理化融資：50→75億円  
事業革新支援融資：15→20億円
- ②**「いばらき産業大県創造基金」造成のための貸付金（新）** 6,010百万円

- ・ 造成規模 75億円（（独）中小企業基盤整備機構60億円など）
- ・ 基金での事業：地域資源活用、ものづくり応援、サービス産業新時代対応

- ③**エコ農業茨城推進事業（新）** 24百万円
  - ・ 化学肥料と化学合成農薬の5割削減など先進的な営農活動への支援
  - ・ 事業主体：地域の農業者等で構成する組織で上記の取り組みを行う営農活動集団
  - ・ 実施面積：1,300ha 支援単価：水稻3,000円/10a
- ④**茨城空港ターミナルビル整備事業（拡）** 1,418百万円
  - ・ 同ビルを建設する県開発公社への貸付金を増額する。総額38億円となる。
  - ・ 22年3月の開港へ向けて、航空会社への就航要請中。



▶総務企画委員会で茨城空港の新滑走路の工事現場を視察。延長2700m、幅員45mの約半分ができあがった。一番機が飛ぶのが待ち遠しい。(20年3月)

### 【保健・医療・福祉の充実】

- ①**救急医療情報システム整備検討費（新）** 5百万円
  - ・ 県救急医療情報コントロールシステムの機能見直しにかかる検討など一救急患者のたらい回しの回避
- ②**ドクターヘリ導入促進事業（新）** 1百万円
  - ・ 本県単独の導入に向けた具体的課題等の検討
- ③**医師確保総合対策事業（新・拡）** 119百万円
  - ・ 医学部学生への修学資金の貸与（月額10万円、48名に拡大）
  - ・ 県職員に採用した医師を不足地域へ派遣するドクターバンク制度の創設。医師不足病院へ後期研修医を派遣した病院に助成する。
- ④**肝炎総合対策推進事業（新）** 579百万円
  - ・ B型、C型肝炎のインターフェロン治療費の患者負担額から一定の自己負担額（所得に応じ1～5万円/月）を除いた額を助成する（1年間/人）。
  - ・ 保健所及び指定医療機関での肝炎ウイルス検査を無料で実施。
- ⑤**国民健康保険特定健康診査・保健指導事業（新）** 165百万円
  - ・ メタボリック症候群の予防・解消のため市町村国民健康保険が実施する、特定健康診査等の費用の一部を負担（国・県とも1/3）
- ⑥**知的障害者就労ステップアップ支援事業（新）** 2百万円
  - ・ 県が知的障害者を事務補助としてモデル的に雇用する。（非常勤嘱託1名）
- ⑦**障害者就業・生活支援センター事業（拡）** 26百万円
  - ・ 就労指導員及び生活支援員が障害者の就業やこれに伴う日常生活について指導助言する。委託先：社会福祉法人等（5か所）
- ⑧**後期高齢者医療費（新）** 17,081百万円
  - ・ 75歳以上の方を対象にした保険の医療給付金にかかる公費負担
  - ・ 公費負担割合：国4/6、県1/6、市町村1/6

### 【安心で快適な生活環境づくり】

- ①**警察施設再編整備事業（新）** 287百万円
  - ・ 笠間駅前交番（稲田・箱田両駐在所を廃所して統合）など交番を8所新設する。
- ②**県立学校施設耐震補強事業（拡）** 557百万円
  - ・ 県立高校などの校舎5校、体育館3校の工事を実施。27年度100%耐震化を目標。
- ③**中小事業者温暖化やる気アップ事業（新）** 43百万円
  - ・ ヒートポンプ給湯設備や太陽光発電施設等を導入する事業者へ、低利融資及び利子補給を行う。（融資利率：2.6%、利子補給：0.9%）

写真で見る  
とこい洋治  
活動記録



▶ 今年は、ブラジル移民百周年。稲田みかげ石でモニュメントを製作してブラジル贈る石彫刻家の絹谷幸太さんと。(20年1月)



▶ 県営本戸地区土地改良事業(藤枝征宜理事長)の竣工式が挙行された。11年の歳月をかけ、総事業費13億9千万円、受益面積77.5haの大事業であった。(20年3月)



▶ 地元からの要望を受け、水戸土木事務所は、本戸区内の南指原川のたい積土砂の撤去を実施した。(20年3月)



▶ 友部小学校の卒業式にて。中学校の制服を着て臨んだ卒業生の立派な所作に感動した。(20年3月)

▶ 旭町区内の岩間街道と友部SAスマートIC通りとの交差点は、スミ切りが無く危険であった。地権者の協力を得て、まもなく危険解消が実現することになった。取り組んできた常井議員は、水戸土木事務所と笠間市の担当者に感謝を述べた。(20年3月)



▶ 岩間プラチナハッピーサークル(久保田美智子会長さん)の皆さんが、県庁見学と県議会傍聴に訪れた。橋本知事、桜井議長と一緒に記念撮影。(20年3月)



▶ 水戸市にある知的障害者のNPO法人ボイス社では、養護学校などを卒業した2人の新入社員を迎え入社式を挙行了。全社挙げて、トマビ一の水耕栽培にも取り組んでいる。(20年3月)

燃える郷土愛。全力投球!!

あと2年で開港、茨城空港に大きな期待

皆様には、常日頃から、私の県議会活動に対し熱いご声援を賜り心から感謝申し上げます。

さて、私は、初当選時からこれまで10年間にわたって、常任委員会では1回も休まずに連続して質問を続けてきましたが、総務企画委員会の副委員長に就任したことにより、他の委員の質問を優先するため、自分では質問ができないことになってしまい、とても残念に思っています。これからは、あらゆる機会を通じて執行部に政策提案をして、実現を図っていきたくと考えています。

総務企画委員会では、県議会閉会中の審査のテーマを「茨城空港の利用促進」としました。国内線の就航先決定に向けて努力している執行部を応援しながら、1年間審査をする予定です。委員会活動として、北海道、大阪府、福岡県、沖縄県まで出向いて、観光業界や経済団体の皆さんにPRしながら協力を求めて、何よりも国内線の就航を実現し、利用促進も図りたいと考えています。

私は、茨城県は陸の高速道路網・鉄道網、海の常陸那珂港などの重要港湾、そして空の茨城空港によって、陸・海・空の基本的なインフラが整備された自立可能な県だと思っています。食料生産性は高いし、災害は少ないし、極めて恵まれた地域で、現代でも「常世(とこよ)の国」といえます。

そこで、私は、300万人の人口を抱えた独立国と同じように、アジアや世界に目を向けた独自の地域戦略を描くべきだと思っています。まずは、茨城空港を窓口にして、多くの



▶ 総務企画委員会では、常井議員は副委員長として、飯塚秋男委員長(下妻市選出)を補佐する。(20年3月)

外国人を受け入れることです。この空港を拠点とした観光やビジネス戦略です。北関東に乗って日光や那須、草津温泉さらには北陸方面まで足を伸ばせます。これらを通して、北関東3県の道洲制より広い「東日本

交流圏」の礎ができることでしょう。

本県内では、外国人向けのサイエンスツアーをつくば、東海などに組めます。宇宙センターなど、日本人以上に好評を博することでしょう。笠間市に進出したイオンモールは、おみやげを買う外国人に格好の場になります。また、そこは、ホテル機能を付加すれば空港とシャトルバスで結ばれた第2ターミナル的な役割も担うことになるかもしれません。

リムジンバスに乗ってつくばTXを利用すれば、秋葉原の電器街も浅草も近くて魅力的でしょう。東京は、もう茨城の後背地になってきます。私は、そう考えることによって、これまでの、東京から本県を見てきた地域感がコペルニクス的に変わってくると思います。そういう風に仕掛ける戦略が大事なのです。

私は、茨城空港を、アジアと結ぶLCC(ロー・コスト・キャリア=低価格運賃航空会社)の路線に特化した空港にしてはどうかといち早く提案してきました。LCCを誘致して、茨城からアジアへ、そして、そこから世界へ飛べる低料金の航路を設定できるならば、茨城は、観光大県にさえなれるのです。もちろん、県民の利便性も一段と向上します。

茨城県が、地方政府として、外国と直接ルートを持って世界にアピールしていく、そういう夢を抱いて、茨城空港を考えていきたいと思っています。日本企業もジェット機製造に進出するなど、航空新時代が目前に迫っています。地方空港の大競争が予想されますので、茨城空港を軸とした国内・国際線のネットワークづくりが大切です。せっかく、空港をつくるなら、22年3月の開港に向けて、そういう仕掛けをいっばいやってみようではありませんか。皆様のご意見を頂ければ幸いに存じます。

これからも、ご支援とご指導を切にお願い申し上げます。  
茨城県議会議員 常井洋治

